

大学における女性卒業生支援を目的とした ソーシャル・ネットワーキング・サービスの提案と実践

徳野淳子・櫻田武嗣・萩原洋一・秋田カオリ・寺田松昭・宮浦千里

要 旨

文部科学省では2006年度より大学や公的研究機関を対象として、女性研究者が研究と出産・育児、介護などを両立し、研究活動を継続するための支援を行う「女性研究者支援モデル育成」事業を開始している。国立大学法人東京農工大学（以下、本学）では、本事業に提案した「理系女性のエンパワーメントプログラム」が採択され、様々な女性研究者を対象とした支援活動を開始している。本稿では、この支援事業のひとつとして、本学の女性卒業生に対する出産・育児後の再就職支援や、再就職へ向けてのブラッシュアップ（知識や技術の磨き直し）支援を目的としたソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を紹介する。

SNSは「人と人とのつながり」に重点を置き、友人関係や仕事関係、趣味趣向や日常生活が共通する人間関係など、あらゆる社会的ネットワークをWeb上で構築することをサポートするサービスである。多くのSNSでは会員登録制を設け、登録しているユーザ以外はその中のコンテンツを閲覧できない。このように「匿名性」を排除することで、信頼性が高く、安心して参加できるコミュニティを提供することを第一の目的としている。

我々は、このSNSの特徴に着目し、「女性卒業生と大学のつながり」を構築することで、学内からの就職支援や、ブラッシュアップ支援がより円滑に行えるのではないかと考えた。特に、SNSの「信頼・安心」という特徴は、就職情報を提供する場合など信頼性が重視される場面にも適している。さらに、「女性卒業生間のつながり」を構築することで、再就職だけではなく、子育てや介護に関する情報交換や相談場所としても利用できる。本稿では、以上の点を踏まえて構築した女性卒業生支援ネットワーク「農工大SNS」を紹介するとともに、これを通じて、大学における新たな女性支援の形態を提示する。

キーワード：女性研究者支援モデル育成、大学、女性卒業生支援、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）、ブラッシュアップ、再就職

1. はじめに

文部科学省では2006年度より、大学や公的研究機関を対象として、女性研究者が研究と出産・育児・介護などを両立し、研究活動を継続するための仕組みを構築する際の模範となる優れた取り組みを支援するため、科学技術振興調整費による新規課題「女性研究者

支援モデル育成」が開始された〔文部科学省 2006〕。国立大学法人 東京農工大学（以下、本学）では、この事業に提案した「理系女性のエンパワーメントプログラム」が採択され、これに伴い、2006年9月1日に女性キャリア支援・開発センターが開設された。本学における女性研究者支援の目的は、図1に示すように、学内の女子学生や女性教員ならびに女性の卒業生に対し、下記の①～④の支援を行い、研究者として活躍するこ

とをエンカレッジすることである。

①キャリアパス支援(女子学生向け)

女性院生が女子学部学生の様々な悩みの相談に応じるメンター制度や、学内外の若手女性研究者によるキャリアガイダンスなどを設け、学生が研究者へ挑戦するキャリアを提案。

②出産・育児・介護の支援(女性教員、研究者向け)

研究支援員の配置や介護クーポン制度、ベビーシッター助成制度を導入し、学内女性教員や研究者の「ワーク・アンド・ライフのバランス」を支援。

③卒業生支援ネットワーク:母校に戻ろうキャンペーン in 農工大(女性卒業生向け)

本学の女性卒業生に対し、教育・研究機会の提供やブラッシュアップ講座を提供し、知識や技術の磨き直しを支援。また、学内外からの雇用を発掘して、出産や育児で離職した女性の再就職を支援。

④エンパワーメント環境整備

大学の環境整備および意識改革を目的とした講演会などの活動。

本稿では、これらの取り組みの中で、③に該当する本学の女性卒業生に対する支援として、女性卒業生同士の情報交換および、大学から女性卒業生に向けた再就職やブラッシュアップ支援の情報提供をWeb上で実現するために、ソーシャル・ネットワーキング・サー

ビス(SNS)を構築した。ここに、大学における女性卒業生支援の活動および、SNSの構築に際しての提案事項と構築した「農工大SNS」の内容について報告する。また、現在の運用状況と今後これを活性化していくための展開について述べる。

2.大学における女性卒業生支援

2.1.大学における女性支援活動と女性卒業生支援の必要性

「女性研究者支援モデル育成」の実施を受けて、大学などの教育、研究機関で働く女性に対する支援活動が活発化しつつある。2006年度「女性研究者支援モデル育成」課題に採択された大学は、本学も含め計10校であり、そこでは主に、子育て中の女性研究者に対して、保育施設の整備や勤務時間の軽減、緩和などの活動が行われている。これまで、大学においても一般企業と同様に、産休や育児休暇制度は設けられてはいたものの、実際にはそれを取得できる状況にないという声も多い。このような背景から、女性研究者が出産や育児により離職をせずに研究を続けていける環境の整備は早急に望まれる課題である。

一方、本稿のような、大学からの女性卒業生に対する支援活動はまだ前例がなく、画期的な取り組みであ

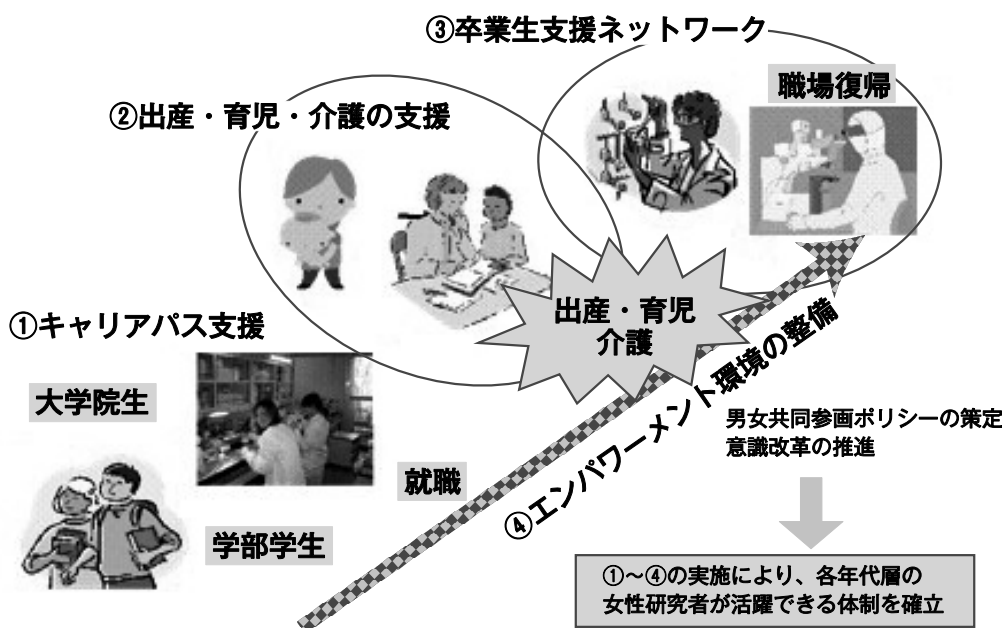


図1 「理系女性のエンパワーメントプログラム」事業内容 (本学、女性キャリア支援・開発センター「女性研究者支援モデル育成」採択課題資料より抜粋)

と言える¹⁾。これまでに、厚生労働省や文献 [笹原 2005:181-190] の報告から、第1子を出産する1年前に働いていた女性の約7割が、出産後半年以内に離職しており、またこのような現象は、4年生大学を卒業したような高学歴の女性の場合も例外ではないということが明らかになっている。結婚や出産後に退職する女性の多くは、条件を整えば再就職したいと考えているが、実際には、賃金や勤務時間などの条件が合わない、年齢制限がある、技術・経験が不足しているなどの様々な事情により、希望する仕事に再就職できないのが現状である。

このような状況を受けて、2005年に、内閣府男女共同参画局のもとに「女性の再チャレンジ支援プラン」が設置された [内閣府男女共同参画局 2005]。しかし、女性の再就職などに関する支援活動はまだ始まったばかりであり、依然として支援を望む女性も多い。再チャレンジを希望する女性に対し、学習や能力開発支援、出産・育児などで離職した女性が円滑に再就職できるように総合的な再就職支援を行うことは、女性卒業生を輩出した大学にとっても大きな課題として受けとめるべきである。

また、大学としても女性卒業生支援の体制を設ける

ことで、いくつかの効果が期待できる。例えば、出産・育児で休・離職してもスムーズに社会復帰できるシステムを母校がサポートすることによって、「この大学で学んでよかった!」と在学生や卒業生に実感してもらえるだろう。また、女性の理想的な就業スタイルを少子社会へ提示できるとともに、優秀な女子高校生を受験生として確保することにもつながり、大学の価値の向上が期待できる。さらに、学内に女性卒業生の人材を派遣することにより、学内の教育・研究が活性化し、在校生の将来構想の参考となり、全学的に女性研究者の活躍の場が拡大することが期待できる。

2.2. 本学の女性支援の実施体制

本学の「理系女性のエンパワーメントプログラム」の実施体制を図2に示す。1.で述べたように、「理系女性のエンパワーメントプログラム」の採択・施行に伴い、女性キャリア支援・開発センターが新設され、4名の専任教員が配置された。同センターは、学長主導の組織であり、既に学内に設置されている男女共同参画推進室や女性教員ネットワーク、部局や同窓会と連携しつつ、意思決定を行っている。また、図1に示した①~④の活動を円滑に行うために、女性キャリア支援・

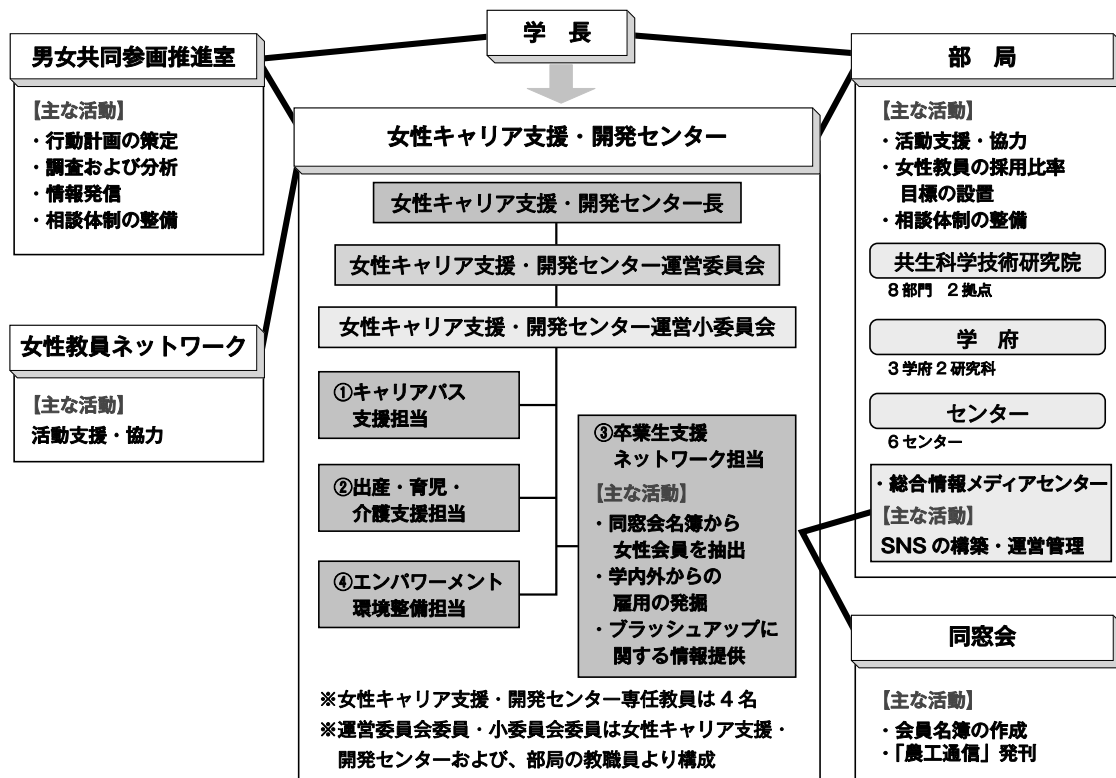


図2 「理系女性のエンパワーメントプログラム」実施体制

開発センター長のもとに、同センターの専任教員と部局の教職員から成る運営委員会、運営小委員会を構成し、①～④の活動毎に担当を割り当てている²⁾。なお、活動毎に、運営小委員会委員と学内事務職員が4～9名程度配置されている。この中で、本稿で述べる③の活動は、全体の4分の1を占め、主に卒業生支援ネットワーク担当と同窓会、部局の一部である総合情報メディアセンターが連携をとって行っている³⁾。

2.3. 本学の女性卒業生支援の取り組み

我々は、女性卒業生と大学、および、女性卒業生同士のつながりに重点を置いた支援を行う。すなわち、大学から女性卒業生に職場復帰やブラッシュアップに関する情報を提供するだけでなく、女性卒業生同士が自由に情報交換を行える場を設け、再就職までの道のりなどの情報をお互いに交換し合う。また、就業中の女性卒業生からも随時求人情報を募集し、離職中の女性に対して就職支援を行う。このようにすることで、情報提供者を大学だけにする場合に比べ、提供できる情報量は飛躍的に増大し、卒業生同士の関係も密接になることが期待できる。また、求職中の女性に限らず、職業や研究内容が関連する就業中の女性同士も新たなつながりを作ることができる。さらに、意見や情報交換の内容を出産や育児、介護にまで広げることで、それらに対して悩みを抱える女性への支援も期待できる。本研究では、この相乗効果を女性卒業生支援の第二の目的とする。

ここで、卒業後各地に点在する女性卒業生の間につながりを設け、円滑に情報交換を行うためには、その支援活動を Web 上で行うのが最も効率が良い。特に、近年のIT技術の急速な進化により、インターネットの利用人口は飛躍的に増加しており、単なる情報収集の手段として用いられるだけでなく、個人間のコミュニケーションの場として利用されるようになってきている。女性情報の分野も例外ではなく、情報入手や交換の手段としてインターネットが利用されている[安達 2005:133-146]。

以上から、我々が目指す女性卒業生支援には、現在、インターネット上でのコミュニケーション手段として最も注目されているソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)が適しているのではないかと考えた。次章では、SNSの機能と特色について述べる。

3. ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)

3.1. SNSとは

人は、友人関係や仕事関係、趣味趣向や日常生活が共通する人間関係など様々な関係を抱えながら生活している。SNSはこのような「人と人とのつながり」に重点を置き、あらゆる社会的関係を Web 上で構築し、更なる人間関係の構築を促進するサービスである[大向 2006:993-1000]。そのサービスを Web 上で提供することから、ソーシャル・ネットワーキング・サイトと呼ばれることもある。一般に、多くのSNSでは、「会員登録制」を設けており、登録しているユーザ以外は、その中のコンテンツを閲覧できない。また、既に利用している人からの招待状がなければ会員登録できない「招待制」を採用しており、実名での利用が推奨されている。このように情報交換が可能な利用者を限定し、「匿名性」を排除することで、信頼性の高いコミュニティを提供することができるため、不特定多数に情報が公開されるブログや掲示板サービスとは異なる密接なコミュニケーションが可能になる。

3.2. SNSの機能

SNSは、現在、国内外に広く普及しており、その機能も各SNSによって様々である。ここでは、代表的なSNSで比較的多く見られる機能について説明する。

(1) SNSへの参加方法

まず、先述した「会員登録制」や「招待制」による参加方法は、SNSの大きな特徴である。これは、既存のSNS会員が直接知っている人間のみを受け入れることで、ある程度の「信頼性」が確保できるという考えに基づいている。

しかし認知度が低いSNSではこの「招待制」は取り入れにくい。SNSの中には誰でも参加できるタイプも存在する。特に、海外のSNSにはこのタイプが多い。またポータルサイトやブログ、掲示板サービスなどをSNSに移行し、そのまま既存のユーザをSNS会員に組み込むという方法も増加している。

(2) マイページ機能

SNSへの登録が完了したユーザには、プロフィールなどを表示するマイページが割り当てられる。プロフィールの氏名には、SNSの信頼性を向上するとともに、実社会において既に知り合いであるユーザがお互

いを発見しやすくするために、実名での登録が推奨されているものも多い。また、プロフィールには、氏名のほかに、居住地や性別、生年月日や趣味、自己紹介文などが自由に入力でき、これらの情報の公開範囲なども指定できる。

さらに、SNSに招待した(してもらった)友人やSNSの中で新たに友人になったユーザとの関係を示す機能として、ユーザ同士のマイページをリンクで繋ぎ、それらを自身のマイページに表示する機能などもある。また、自身のマイページを閲覧しに来たユーザの履歴を示す機能なども設けられており、この情報は新たな人間関係を構築する際に利用される。

(3) ブログ機能

多くのSNSには、マイページ内にブログ機能が設けられており、ここで自身の日記を自由に書くことができる。また、他のユーザのマイページに移動し、ブログを閲覧したり、それに対してコメントを残すこともできる。このように、お互いのブログを閲覧したり、コメントを投稿したりという行為は、一種のコミュニケーション手段として確立している。さらに、SNSではブログの閲覧範囲なども限定できるため、悪質なコメントの投稿など、嫌がらせを抑制する効果もある。

(4) コミュニティ機能

趣味趣向や生活環境などが共通するユーザ同士が自由に情報交換できる掲示板として、コミュニティ機能がある。各ユーザが自由にスレッドを生成ことができ、中には、特定のユーザに対してアクセスブロックする機能などもある。また、個々のユーザが何に興味をもっているか他のユーザにも分かるように、マイページ内にそのユーザがどのコミュニティに属しているかが表示される機能もある。

(5) その他の特徴的な機能

これまで述べてきた機能の他にも、SNSの中には様々な機能が存在する。まず、(2)で述べたマイページ内にお気に入りの商品などを表示するレビュー機能や、個人の予定を管理するスケジュール管理機能などが設けられているものもある。また、通勤、通学時の電車内などPCがない環境で日記を投稿したり、コミュニティを閲覧したりするために、携帯端末からSNSが利用できる「モバイル機能」が設けられている。さらに、SNS内に地図情報を設け、調べたい道のりや知りたいお店の情報を調べたりできる「GPS機能」なども存在する。

3.3.SNSの運用例

近年、SNSは急速に普及しており、世界最大のSNSである「MySpace」の会員数は1億人を超え、1日あたり約25万人の新規登録がある。国内最大のSNSである「mixi」では2007年5月20日までに1,000万人以上の会員を得ている。このように巨大化したSNSを利用する人がいる半面で、それらの「信頼性」や「安全性」の低下を指摘する声も多い。巨大化したSNSでは、システム全体の規模が大きくなるため、管理が困難になってしまう。また、ユーザ側から見た場合も、利用者が多くなり、人間関係が分散していくと、距離や面識、環境などいくつもの障害が生まれ、なかなか相手の人間と向き合うのが困難になる可能性もある。そこで、これらを改善し「人とのつながり」をより密接にすることを目指した小規模なSNSが提案されている[梅田 2006:69-76]。代表的なものに、熊本県八代市役所が立ち上げた地域限定のSNS「ごろっとやろっち」がある。これは、地域に根ざした話題(近所の店、通学路、公共施設など)を単位としたコミュニティを育成し、社会生活に関する問題意識を共有することを目的としている[熊本県八代市 2002]。また、いくつかの大学では、大学をひとつの単位としたSNSの運用もスタートしており、講義情報レビューや大学近くのグルメレビューなど大学生活に必要な情報を中心に、学内のコミュニケーションサービスやオンラインキャンパスとして幅広い学生間の交流に用いられている。

3.4.女性卒業生支援を目的としたSNSの利用

これまで述べてきたSNSの「人と人とのつながり」をサポートするという特徴は、今回我々が目指す女性卒業生支援の目的に合致している。また、「信頼」や「安心」という特徴も、再就職を希望する女性に就職情報を提供する場合など、ある程度の信頼性が重視される場面に適している。加えて、出身校という枠組みの中でネットワークを構築することで、全く知らないユーザの間にも予め共通のつながりが設けられているため、情報交換や新たなつながりが構築し易いという効果も期待できる。

本提案と同様に大学の卒業生を対象としたSNSとして代表的なものに、東京大学のベンチャー企業が運営している東大OBネットがある[Abraham Group Holdings株式会社 2005]。我々が利用者を女性のみ限定するのに対し、東大OBネットは、全ての卒業

生を対象としている。農工大SNSでは利用者を女性のみ限定することで、依然として女性に負担が多い育児や家事など女性ならではの問題に対し、より活発に意見交換が行われるのではと期待する。

4. 女性卒業生支援ネットワーク「農工大SNS」

本章では、我々が設計した「農工大SNS」の利用対象者、機能、および、提供しているコンテンツについて紹介する。図3に「農工大SNS」のトップページを示す。

4.1. 「農工大SNS」の利用対象者

「農工大SNS」の利用対象者は、1960年から2005年に本学の学部、修士、博士課程のいずれかを卒業した女性卒業生6,976名である（2007年3月時点）。なお、この中には、本学の学部卒業後、修士課程や博士課程に在籍する在校生も利用者として含まれている。また、この他に、学内からの情報を女性卒業生へ伝えるため、「農工大SNS」の運営に関わる学内の教職員も利用者として登録した。

4.2. 「農工大SNS」の基盤

我々は、「農工大SNS」を構築するにあたり、大学機関にも広く用いられているXOOPS (eXtensible Object Oriented Portal System) というオープンソースを利用した[XOOPS 2005][米満2007:1710-1720]。現在、SNSを構築するためのオープンソースとして最も代表的なものは、OpenPNE [株式会社手嶋屋 2002] というソフトウェアであり、3.3.で述べた小規模なSNSは主にこれを用いて構築されている。一方で、XOOPSは、必ずしもSNSの構築に特化したものではないが、OpenPNEに比べ、モジュールによる機能追加の手法が確立しているため、機能の拡張が容易にできる。これまで女性支援を目的としたSNSというのは事例がなく、また、卒業生を対象としているため、事前に必要な機能に関するヒアリングを行うことは困難である。そこで、運用を通じて女性卒業生から意見を聞き、逐次機能拡充を行っていくという方針で、今回はXOOPSを採用した。

以下に、「農工大SNS」の機能および、提供するコンテンツを示す。各機能は、基本的に、XOOPSのモジュールを用いているが、中には、利用目的に合わせてカスタマイズしているものもある。



(a) ログイン前

(b) ログイン後

図3 「農工大SNS」のトップページ

4.3. 「農工大SNS」の各種機能とコンテンツ

我々は「農工大SNS」を構築するにあたり、次の3つの要件を満たすように実装した。

- ・「農工大SNS」の信頼性、安全性の確保
- ・大学から女性卒業生への情報提供
- ・女性卒業生間でのつながりの構築、情報交換の促進

以下では、上記の項目毎に、実装した機能について紹介していく。

(1) 「農工大SNS」の信頼性を確保するための機能

信頼性の高い環境で女性卒業生同士が自由に情報交換できるように、①新規登録機能、②ユーザ認証機能を設けた。以下に各機能の詳細を示す。

①新規登録機能

3.で述べたように、多くのSNSでは、「招待制」を導入している。この機能は、サイトとしてより多くのユーザを確保できるというメリットがあるが、今回のように利用者を本学女性卒業生に限定したいという場合には適していない。一方、利用者を本学女性卒業生のみに限定するために、管理者のみが利用者を登録可能にし、本学同窓会が管理している名簿をもとに予め全ての女性卒業生を登録した場合、通常は、新規登録時に利用者が登録していたメールアドレスの情報を取得することができなくなる。本学同窓会は、卒業生の住所などの情報は保有しているが、e-mailアドレスは保有していない。様々な情報が電子化される今日、卒業生のe-mailアドレスを大学側で管理しておくことで、今後卒業生への連絡がとりやすくなる。

そこで我々は、女性卒業生に対し、ユーザIDとパスワードを発行し、これを用いて新規登録手続きを行ったユーザのみSNSを利用できるように設計した。この際、卒業生が日頃使用しているメールアドレスも登録してもらうとともに、個人情報 Web 上で扱うことに対する利用規約への同意も行っている。また、新規登録を完了していないユーザはSNSへのログインができないように設計し、SNSの利用を望んでいない女性卒業生にも配慮した。なお、このユーザID、パスワードは本学同窓会の名簿を元に、女性卒業生宛に郵送にて通知した。

②ユーザ認証機能

学内および女性卒業生から提供されるコンテンツに対し、登録者以外は閲覧できないようにするために、「農工大SNS」のトップページには認証機能が設けてあり、先述したユーザID、パスワードを入力して認証

が成功しなければ、中のコンテンツは一切閲覧できないようになっている。

「農工大SNS」のログイン前のトップページが図3(a)に示したようになっているのに対し、ログイン後は、図3(b)に示すように、以下に述べる機能のメニュー一覧、および、新着情報などが表示される。3.で述べたSNSの中には、ログイン後にマイページが表示されるものもあるが、「農工大SNS」では、大学からの女性卒業生へのお知らせと新着の求人情報が最も目立つようになっている。

(2) 大学から女性卒業生へ情報提供を行う機能

「農工大SNS」では大学から女性卒業生に対し随時情報発信を行うため、各種情報を掲示する機能、および、学内の女性教員が自由に書き込めるブログ機能を設け、下記のコンテンツを掲載している。提供しているコンテンツを以下に示す。

①大学からのお知らせの掲示

1.で述べたように、現在本学では、女性キャリア支援・開発センターが主体となり、定期的に女性支援を目的としたイベントや講演会を開催している。これらの活動を女性卒業生に向けて発信する。

②求人情報の掲示

学内の教員や女性卒業生から寄せられた求人情報を掲載する。なお、雇用によるトラブルを避けるため、求人を紹介する場合は、必ず、事前に「農工大SNS」の窓口を通すように呼びかけている。

③女性センターのブログ

学内の現在の様子や、本学の女性キャリア支援・開発センターの活動などを紹介するため、本学女性教員のブログを不定期で掲載する。なお、本ブログには女性卒業生が自由にコメントを書くことができるため、女性卒業生と本学教員との意見交換の場として用いることができる。

④ブラッシュアップに役立つ情報の提供

本学女性キャリア支援・開発センターから、再就職や転職のためのブラッシュアップ(知識や技術の学び直し、磨き直し)に役立つ情報を女性卒業生に向けて掲示する。

(3) 女性卒業生間につながりを構築し、情報交換を促進するための機能

女性卒業生の間につながりを構築するために、①プロフィール紹介機能、および②メンバー検索機能を設けた。また、女性卒業生間での情報交換を促進するた

めに、③プライベート・メッセージ、④卒業生のコミュニティ機能を設置した。以下に各機能の詳細を示す。

①プロフィール紹介

「農工大SNS」では、女性卒業生に自身の発言に責任をもってもらい、安心して信頼性の高いコミュニティを形成するために、個人の氏名を予め登録し、投稿を行った際は実名での表示を行っている。また、女性卒業生同士が、お互いのことを発見できるように、個人の氏名の他に、卒業学科・年度、学位を予めプロフィールとして登録した。ここでは、ユーザ自身が、居住地や出身地、趣味などの情報を入力することができ、プロフィールの公開/非公開についても選択できるようになっている。

②メンバー検索

卒業後音信不通の友人の検索、又は、自身のキャリア、研究分野などと類似する女性卒業生が発見できるように、メンバー検索機能を設けた。本機能は、プロフィールを公開しているユーザのみを検索対象としているため、上記①プロフィール紹介機能において、プロフィールを非公開にしているユーザは検索結果には表示されない。このようにすることでユーザのプライバシーにも配慮した。

③プライベート・メッセージ

「農工大SNS」内で知り合った面識がない女性卒業生同士が、いきなりお互いのメールアドレスを教えて連絡を取り合うというのは、非常に敷居が高いと考えられる。そこで、互いのメールアドレスを教えずに、「農工大SNS」の中だけで気軽にメッセージのやり取りができるインスタント・メッセージ機能を設けた。プライベート・メッセージでは、新規メッセージがあった場合、ログイン後に表示されるユーザメニューからすぐに分かるようになっている。

④卒業生のコミュニティ

3.2.の(4)で述べた一般のSNSのコミュニティ機能と同様に、女性卒業生が自由に情報交換できるように、卒業生のコミュニティという掲示板機能を設けた。卒業生のコミュニティでは、下記に示すカテゴリが設けられており、女性卒業生が自由に意見の書き込みができるようになっている。

【卒業生のコミュニティのカテゴリ一覧】

- ・自身の職業や研究、キャリアなどについて紹介する自己紹介カテゴリ
- ・地域や出身研究室毎に女性卒業生同士が情報交換を

行う同窓会カテゴリ

- ・本学女性キャリア支援・開発センターのイベントに対する感想・要望を書き込むカテゴリ
- ・工学や農学など研究分野毎に自由に研究情報を交換するカテゴリ
- ・再就職に関して、意見交換を行う就職情報カテゴリ
- ・育児や介護について相談を行うカテゴリ

(4) その他の機能

「農工大SNS」では、4.3.の(1)～(3)で述べた機能以外にも下記の機能を設け、ユーザに対する利便性の向上や今後の機能拡充に役立てている。

①更新の自動通知

家事や育児に忙しい女性にとって、場合によっては「農工大SNS」にログインして新着情報をチェックする手間すら省きたいということがあるかもしれない。そこで、「農工大SNS」には、卒業生のコミュニティやお知らせ、求人情報などで新規の書き込みがあった際に、登録したメールアドレスに自動的に通知する機能を設けている。また、本機能は、登録したメールアドレスにメールを配信するほかに、プライベート・メッセージとして配信するという選択項目もある。

②メールマガジンの発行

「農工大SNS」の内部に設けられている機能とは別に、不定期で登録者に対しメールマガジンを発行する。これは、①と同様に「農工大SNS」へのログインが遠ざかっているユーザに対する連絡手段としても用いる。

③アンケート

先述したように、今回「農工大SNS」を構築するにあたり、事前に、女性卒業生に対してヒアリングを行うことが困難であったため、運用を通して徐々に利用者が望むものへと機能を改良していく必要がある。この目的に利用するため、アンケート機能を設置した。他の機能において、ユーザの書き込みが実名で表示されるのに対し、より積極的な意見を聞くため、アンケート機能のみ匿名で回答ができるようになっている。

5.「農工大SNS」の運用と今後の展開

5.1.「農工大SNS」の運用までの過程と運用体制

我々は、2.2.で述べた実施体制確定後、2006年10月から「農工大SNS」の運用に向けて活動を開始した。

まず、4. で述べたシステムの仕様や運用方針を決定するために、1～2ヶ月かけて担当者間で打ち合わせを行い、その後、システムの構築を開始した。「農工大SNS」はオープンソースを用いているため、比較的短時間で構築できるというメリットがあるものの、今回は、既存の機能の変更を行ったため、サーバの設置期間なども含め、構築に約3ヶ月程度の期間を要している。またこの作業と平行して、同窓会と連携し、女性卒業生の名簿作成や案内の作成、配布を行っている。以上の作業を経て、2007年3月から運用を開始した。

本プロジェクトの実施体制は、2.2. で述べた通りであるが、「農工大SNS」の構築、管理のために、本学総合情報メディアセンターの教員を女性キャリア支援・開発センター運営小委員会委員として配置している。一方、4.3. の(2)で述べた大学から女性卒業生への情報提供は、基本的に女性キャリア支援・開発センターの専任教員が行い、同センターを窓口として、運営委員や学内の教職員から寄せられた情報を掲載している。

5.2. 「農工大SNS」の運用状況

運用開始時に、女性卒業生にユーザIDとパスワードを発行して登録を呼びかけたところ、2007年7月時点で約370名の登録があった。現在までに、学内外を合わせ、大学や一般企業からの求人情報が計5件寄せられている。また、卒業生のコミュニティには、保健婦、助産師、看護師の資格をもつ本学卒業生による出産・育児・介護の相談室なども設けられ、徐々に育児に関する相談なども書き込まれつつある。また、女性センターのブログにおいて、育児などを話題にしたブログには、積極的なコメントが書かれることが多く、女性卒業生の育児に関する関心などが伺われた。

スタートに先駆けて立ち上げた検討会において、女性卒業生から意見を求めたところ、希望職種に出会っていない20代の卒業生から50代の管理職まで、様々な立場から意見が寄せられた。「プレゼンテーションのテクニックなどに関する講座があるとよい」、「最新の実験技術や、最先端の内容を提供してくれるような、農工大でなければできない講義があるとよい」、「専門領域ブラッシュアップ型、子育て再復帰型など、いくつかのパターンがあるとよい」など、多様な期待が寄せられている。

5.3. 今後の展開

現在、更なる機能拡充のために、利用者に対しアンケートを実施し、「農工大SNS」に登録した目的を調査している。この結果を受けて、今後の機能拡充などを検討する予定である。また、求人情報を希望する声も多いため、今後は学内の教員に積極的に呼びかけて、情報収集に努めていく予定である。同様に、自身の研究内容や自己紹介などがしたいという意見や、本学の女性卒業生の活躍が知りたいなどの意見も多く、ユーザ自身の情報についてより気軽に書き込みができるスペースを設ける必要があると感じている。

さらに、今後の女性卒業生支援の大きな柱として、ブラッシュアップ、いわば、「母校における学び直し」に対するサポートを検討している。大学としても、大学院や科目履修生として入学を希望する卒業生に対しては入学金の免除などを行っているが、遠隔地にいる女性卒業生からは、Web上でブラッシュアップ講座が受講できればという要望もあるため、今後は女性卒業生に向けたe-Learningなども検討していく予定である。また、女性卒業生だけではなく、本学に在籍する女子学生も「農工大SNS」の利用者として登録し、卒業生と在校生の交流や就職に関する情報交換への利用などについても模索していく予定である。

6. おわりに

本稿では、SNSを活用して、大学から女性の再就業やブラッシュアップ、育児や介護の支援を行うという新たな女性支援の形態を提示した。具体的には、「信頼性」の高い環境下で「人と人とのつながり」を構築するというSNSの特徴が、大学から女性卒業生に対して再就職やブラッシュアップの支援を行う場として、さらには、女性卒業生の間で子育てや介護、再就職に関する情報交換を行う場として適しているのではないかと考え、女性卒業生の支援を目的とした「農工大SNS」を提案、実践した。

本活動を通じて、まず、女性卒業生から最も多く聞かれた声は、「大学において、女性支援の活動が開始されたことを非常に嬉しく思う」というものだった。大学では、これまで積極的に女性支援の活動は行われておらず、一般企業などに遅れをとっているといっても過言ではない。育児や介護などの問題を1人で抱えて

いる女性や、子育てなどで離職した女性への再就業支援は地域社会を挙げて取り組むべき課題であるが、大学も例外ではない。大学に入学したことによってできたつながりを卒業後も維持し、そのつながりを通じて、大学から女性へ支援を行うことによって、より多くの女性に対し、再チャレンジの機会の提供や抱えている悩みの軽減に繋がるのではないかと思う。本学の試みは、まだ開始したばかりであるが、これを今後の大学発の女性支援という新たな支援形態の第一歩にしたいと考えている。

〈謝辞〉

本研究は、文部科学省2006年度科学技術振興調整費による新規課題「女性研究者支援モデル育成」により実施されたものである。また、本研究に関して貴重なご意見を頂いた本学女性キャリア支援・開発センターの岩淵祐子博士、鍋嶋絵里博士、星野明香女史および、同センター運営委員会委員、小委員会委員各位に感謝する。

〈注〉

- 1) 女性卒業生支援の活動を「女性研究者支援モデル育成」の一環として行うことについて、女性卒業生の中には、研究者に限らず専業主婦やパートなどの就業形態で勤務する兼業主婦も含まれるが、本プログラムでは、その中に含まれる「将来的に研究職への復帰を希望する女性」を支援対象とするため、本稿ではこれも広い意味での女性研究者支援とする。
- 2) 立ち上げ当初の運営委員会委員は7名、運営小委員会委員は16名である。
- 3) 本稿の著者は③の活動の代表者、もしくは、主に運営に関わっている者であるが、本稿で用いる「我々」という表記は、図1に示す③の活動に携わった全ての学内関係者を意味する。

〈引用文献〉

- Abraham Group Holdings株式会社 2005 「東大OB ネット」 <http://todai-ob.net/>
- 安達一寿、青木玲子、尼川洋子、大西祥世、森未知 2005 「女性情報ポータル再構築のための現状分析と機能仕様の設計」『国立女性教育会館研究紀要』 9号:133-146
- 株式会社手嶋屋 2002 「OpenPNE 公式サイト」 <http://www.openpne.jp/>

熊本県八代市 2002 「ごろっとやろっち」 <http://www.gorotto.com/>

文部科学省 2006 「科学技術振興調整費 女性研究者支援モデル育成」 http://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/koubou/06060127/002.htm

内閣府男女共同参画局 2005 「女性の再チャレンジ支援プラン」 <http://www.gender.go.jp/e-challenge/>

大向一輝 2006 「SNSの現在と展望—コミュニケーションツールから情報流通の基盤へ—」『情報処理学会論文誌』 Vol.47 No.9:993-1000

笹川あゆみ 2005 「ITを利用した大卒女性の再就業：在宅ワークの可能性」『メディア教育研究』 Vol.1 No.2:181-190

梅田空大、富澤眞樹 2006 「地域指向型 SNS の提案」『情報システムと社会環境研究会』 Vol.2006 No.27:69-76

XOOPS Cube Project 2005 「XOOPS Cube 日本サイト— Simple, Secure, Scalable」 <http://xoopscube.jp/>

米満潔、梅崎卓哉、藤井俊子、江原由裕、穂屋下茂、角和博、高崎光浩、大谷誠、大月美佳、皆本晃弥、岡崎泰久、渡辺健次、近藤弘樹 2007 「MoodleとXOOPSを基盤とした大学の要求を考慮した学習管理システムの開発と運用」『情報処理学会論文誌』 Vol.48 No.4:1710-1720

(とくの・じゅんこ 東京農工大学特任助手、さくらだ・たけし 東京農工大学助教、はぎわら・よういち 東京農工大学准教授、あきた・かおり 東京農工大学特任准教授、てらだ・まつあき 東京農工大学教授、みやうら・ちさと 東京農工大学教授)